

産業建設分科会



9月14日
(午前)



9月14日
(午後)

議案第46号 令和3年度鈴鹿市一般会計決算の認定について

C-BUSの実績と今後に向けた検討について

- C-BUS運行精算金(歳入) 3,206万7,406円
- 西部地域C-BUS運行事業費(歳出) 9,101万4,000円
- 南部地域C-BUS運行事業費(歳出) 7,271万8,900円

質疑 令和3年度の西部地域および南部地域のC-BUSの収支などについて、どのように分析しているか。また、今後の運行に向けてどのように検討しているか。

答弁 令和3年度のC-BUS運行精算金(歳入)の内訳は、西部地域の路線が2,213万8,580円、南部地域の路線が992万8,826円で、収支差額は合わせて約1億3,000万円の赤字となっている。令和3年度の利用者数は約18万2,000人であり、令和2年度の利用者数である約17万8,000人よりは増加しているが、コロナ禍前の令和元年度の利用者数である23万2,000人を目指し、利用者数の回復に取り組んでいきたいと考えている。また、今後については、日中など乗客の少ない時間帯の運行の見直しを検討するとともに、福祉事業、地域づくり事業との連携により、C-BUSで補完できる範囲の見直しを行うことを検討している。

モノづくり元気企業支援事業について

- モノづくり元気企業支援事業費 208万2,664円

質疑 この事業によりどのような商品が開発されたのか。また、この事業は何社を対象としていたのか。

答弁 令和3年度は、三恵工業株式会社が製造する医療機器のカテーテル保持ホルダーなどの開発に対して支援を行った。なお、当該商品については令和4年9月14日時点において製品化はされていない。また、事業の対象は、2社を予定して予算を計上した。



カテーテル保持ホルダー

産業建設委員会

詳細は動画(YouTube)をご覧ください。



9月28日

議案第54号 鈴鹿市手数料条例の一部改正について

低炭素建築物新築等計画認定申請手数料などの改定について